

## 「活用の手引き」の充実と視聴覚教材の検討の方向性について

- 教育現場の具体的な取組事例や意見を把握しつつ、以下のような方向で「活用の手引き」の充実や視聴覚教材について検討を進めてはどうか。

### 1 「活用の手引き」の充実について

- 学習指導要領等との関連づけに留意する。
- 指導案を掲載する。
- 各ページの意図を明確化する。
- 専門用語等の解説（病名、症状など年表中の事例の内容等）を盛り込む。
- 予備知識や補足的な情報（例えば副作用、医薬品の安全対策の経過など）を盛り込む。
- 学習のポイントに関する回答例を掲載する。
- 学校現場で活用しやすいものとなるよう、極力わかりやすく簡潔なものとなるように留意する。

### 2 視聴覚教材について

- パンフレットの使用を前提とした補助教材としての位置づけとする。
- 1時限の授業での活用を前提とした時間（20分程度）及び構成とする。（主にパンフレットのP1～4を対象とする）